

SENID・2010年度事業報告

1. 調査活動「妊婦・新生児 TSH ホルモン検査のパイロット研究」

①目標・目的

最終目標はネパールのヒマラヤ山麓の農村に於いて、ヨード欠乏による甲状腺機能障害；ヨード欠乏症を予防し、根絶することである。

そのために、妊婦への十分なヨード補給をして、ヨード欠乏しない新生児を出産することで、予防を計る。そのために病院でのヨード欠乏症の識別検査が母子ともども必要になる。

②方法

- ・ネパールの病院では識別するための甲状腺刺激ホルモン・TSH 検査の実施が難しいので、日本で検査支援をすることが可能かどうか試験に挑戦するのが、今回のプロジェクトである。
- ・そのためにネパールの病院で採血し、採血フィルターで日本に空輸し、兵庫がんセンターで TSH 検査を行う。検査結果は直ちに病院にフィードバックし、ヨード補給活動に結びつける。

③場所と対象者（ネパール Nepal）

- ・ Beni Hospital (Myagdi district ; 西部地域山間部) 妊婦 37 名
- ・ Chautara Hospital(Sindhupalchowk district 中央地域山間部) 出生幼児 34 名

④期間

- ・2010.10~2011.1 の間に PHIDReC/公衆衛生流行病研究センターの指導の下に、上記2病院にて3回に分けて参加募集と採血を行った。
- ・2010.11.08~2011.02.05 TSH 検査 於兵庫県ガンセンター
上記妊婦 37 名 幼児 34 名 合計 71 名を対象に TSH 検査実施

⑤成果

- ・TSH 検査の結果 ヨード欠乏の妊婦 5 名、ヨード欠乏幼児 5 名 合計 10 名 罹患率 $10/71=14.1\%$
- ・妊婦 37 名中 32 名は、ヨード欠乏の赤ちゃん出産の心配なく、臨月を迎えることを確認できた。検査により発見されたヨード欠乏の母親 5 名は、即ヨード補給の手配を施したので、ヨード欠乏の赤ちゃんを出産する可能性は殆どなしの安心状態で出産を迎えることができたと思われる。誕生後の赤ちゃんの TSH 検査で確認の必要があるが、来年度はこの確認までを一貫作業としてプロジェクトに取り込む予定。
- ・ネパールと日本との識別検査連携プレーが確立したので、来年度からの本番では、

安全輸送とスピードアップに留意すれば、機動性のあるヨード補給活動がネパールの病院現場でスムーズに遂行できる目安が出来たことは成功と言える。これ偏に大川理事と田端会員の検査チームの賜物です。

⑥ 当事業の今後の方針

今回のヨード欠乏識別検査を日本で実施支援できるシステム（仕事の流れ）が確立したので、このシステムを織り込んだヨード補給活動を、Myagdi Hospital で実施する予定。

2. ヨード補給活動

① 対象 上記 5 名の妊婦

② 場所 Beni Hospital

③ 目的 ヨード欠乏のない新生児の出産を期待してヨード補給

④ 昆布カプセル補給 6 ヶ月×30 日×5 人=900 錠

⑤ 補足 1 ; 当初プロジェクトにはヨード補給活動は入れていなかったが、人道的観点から急遽昆布カプセルを空輸し、ヨード補給を実施。

⑥ 補足 2 ; 5 人の妊婦にママさん日記記入を依頼（追って回収の予定）

3. 広報活動

① 毎日新聞大阪 2010 年 7 月 14 日（水）朝刊 おおさか発・プラスアルファの欄で「ヨード欠乏症」根絶にかける ネパールこぶ取り物語のキャッチで 5 段抜きの記事掲載となった。

・ 扱い担当記者；澤木政輝

・ 効果；約 20 万円の寄付金と手紙があった。

② 関西学院大学総合政策リサーチコンソーシアム

・ 月日 2010 年 5 月 21 日（金）

・ 場所 関西学院会館

・ パネル発表「ヨード補給による新生児の成長・発達効果について」

③ 国際開発学会全国大会

・ 期間 2010 年 12 月 3 日（金）～12 月 5 日（日）

・ 場所 早稲田大学早稲田キャンパス

・ パネル発表「ヨード補給による妊婦の出産効果について」

4. 助成金

・ 公益財団法人 大阪コミュニティ財団

・ 公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

・ 日本農産工業株式会社 ヨード卵部

5. 国際交流

・ 2010.05.28~ 06.01 PHIDReC/公衆衛生流行病研究センタースタッフ 2 名を招聘

Dr. Megha Raj Banjara / Pant Director

- ・総会における講演、プロジェクトの打ち合わせ、意思の疎通を図った。